



3. レオナルド・ダ・ヴィンチ ダ・ヴィンチがなぜ天才と呼ばれたかは、絵画のおかげではないかと推測し、なるほど！これはBですね。どう検証しますか？  
アナモルフォーシは驚かせして、 ダヴィンチの天才性には、未来科学の先取り、があるように考えます。  
レオナルドが描いたマリアが、右下から見るエウに考えられていたのは、 これは、素晴らしい解釈です。マリア側  
見る人がマリアの目線と同じになり、絵の中に引き込まれる効果 からの視点で世界を見てみる、という試み  
あるのではないかと思います。 であるかもしれません！

ダヴィンチの津々も初めて知りました。学校の授業では何が津々のかは教えてくれないので新鮮でした。  
 それは重要な指摘だと思います。実は、キリスト教関係の立場から、この絵についてコメントをいただいているので、機会を見つけてそのコメントもご紹介しましょう！

4. シェルドレイクの実験 超能力や心霊現象をよく考えずに否定する人がいるが、科学の力に過信しているのではない。

私は超能力は全く信じてない、むしろ科学はそういう物も含め、証明がつかないものは改められた。  
テレパシーはあると思う。年々確率が、次の日やその次の日にたまたま会う、 シェルドレイクの実験  
人が夢に出ているとかある。私は能力を持っているのか？!! 笑 の話を授業ですると、  
超能力について現実味が無い気もあるが実際にあると思う。例えば 的な反応がいくつかあります。「あつてほしい」「いや、絶対ない」「絶対ないと言い切ることにはできないのではないか」「科学ですべてを説明できる  
クジ引きで狙ったものを引いたりすると頭の中が伝えたと思ってしまう。 ではないか」「科学ですべてを説明できる  
たまたま同じタイミングでお互いに連絡をしたり、同じことを言ったりすると といは限らない」などなど。  
以心伝心という感じで何かお互いに通じるものがあったような気がする。 とは限らない」などなど。  
世の中には理解を超えた現象が起る。 このコメントは、非常に冷静なコメントです。私自身も授業の中で、超常現象があるのかないのか、という話をしたいのではなく、それらをどうやって区別するか、その方法としてこのような方法が考えられる、ということを示したいのです。  
しかし情報が錯綜する中、ステオリア無しに判断する。  
事は難しく、特に超常現象、または、ステオリアに因りた

仮説を立てる時に数字を使って具体的にした方がより検証を行いやすく 具体定期には、  
統計検定という方法でした。その基本的な考えは身につけておきましょう。このよ  
なると思いました。うな問題の場合には、統計検定だけが頼りです。

え、超能力の話は、どうもカバカバな話好きですが、それを理屈を考えるのも好きです  
どんな右エーションか忘れたか、今回のケースに似たような事が起った時に考えたのが  
記憶の錯覚です、実際には考えていなかったか、突然の連絡に月が驚いて瞬間的  
にそのことを考えて、直前までの記憶を記憶して、直前までその人を考えていたと  
錯覚する人の記憶は意外と書きまいると聞いたことがあるので、しかし、今回  
のビデオでこの仮説が違っていたということを示されてしまいましたか...

第5回の講義では、BとCを何度も繰り返して、それでも成立していたら、仮説が法則となる、ということを実験科学の考え方として学びました。ここでもそうです。様々な仮説を立てて、それを確かめることで、初めてきちんとした結論が得られます！

テレパシーが超能力だと言いつつすでに人間は完全に解明 大丈夫です！人体にも、人間にも、社  
されてしまったという風に感じた。 会にも、自然にも、宇宙にも、謎はいっ  
 ぱいあります！